

水元小合溜における外来カメ捕獲報告

○齊藤 悠・市原 みずよ・中島 幸一・泰山 慎太郎・草野 寛子

(NPO 法人 水元ネイチャープロジェクト)

東京都の北東部にある水元小合溜は、都立水元公園と埼玉県立みさと公園、大場川に囲まれた面積が約 25.5ha の準用河川（他の河川との接続なし）である。釣仙郷として知られるが、都内で唯一の水郷景観が残る場所であり、現在も貴重な動植物の生息・生育場所となっている。水元小合溜では、過去にカミツキガメの目撃や釣り人による捕獲の報告があったことから、東京都葛飾区では 2019 年から捕獲調査を実施しており、当法人はその一部を担ってきた。そこで外来カメ類に関する、これまでの捕獲調査結果を報告する。

調査方法

捕獲方法：カゴあみ又は定置網を使用。誘因エサは魚類の内臓等。

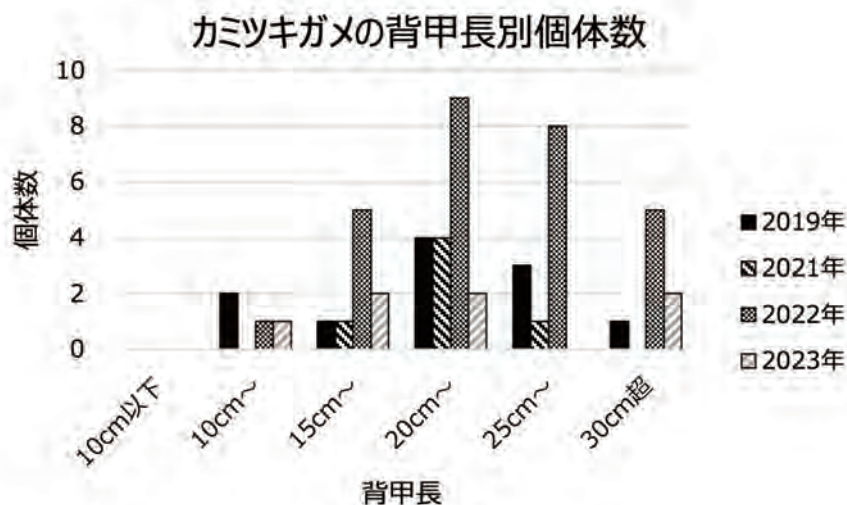
捕獲期間：2019 年 4～11 月、2021 年 6～10 月、2022 年 4～10 月、2023 年 4～12 月

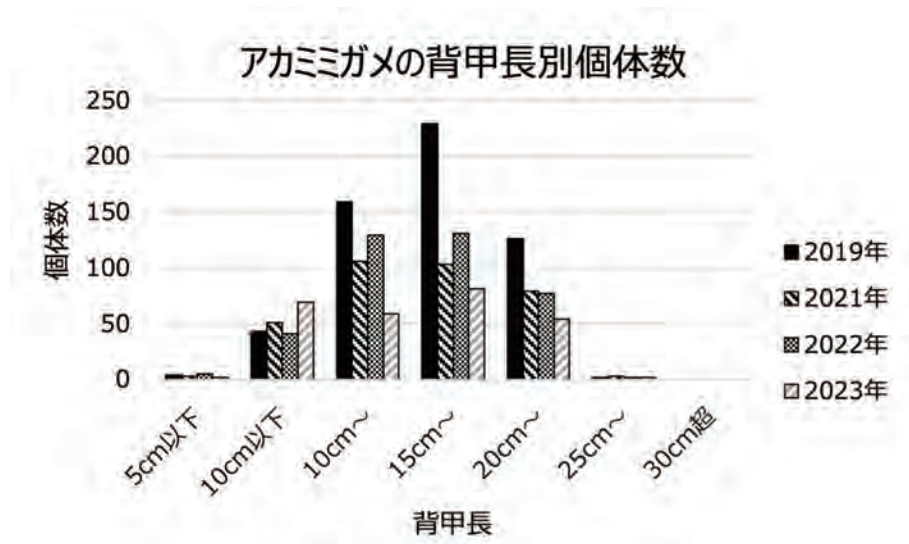
※ 2020 年は他の事業者が実施。2023 年度は 2024 年 3 月まで実施予定。

調査結果

外来カメ類の捕獲結果（匹）

調査年	カミツキガメ	アカミミガメ	クサガメ	その他	合計
2019 年	11	563	132	キバラガメ 1、ニオイガメ類 1	708
2021 年	6	354	51	ハナガメ 1	412
2022 年	28	390	36	ニオイガメ類 1	455
2023 年	7	267	12	ハナガメ 1	287
合計	52	1,574	231	5	1,862





考察・今後の課題

カミツキガメは2022年度が最も多く捕獲されており、また小合溜に隣接する都立水元公園では10cm以下の個体を含む多数のカミツキガメが捕獲されていることから、個体数自体は多くないものの、減少傾向にあるとは言えない。

アカミミガメの捕獲数は2019年が最も多く、その後減少傾向にある。実際に甲羅干しをしている個体や釣れてくるアカミミガメが少なくなったとの証言や、小合溜のハスの生育範囲が拡大するなど、アカミミガメの減少が疑われる事象が発生している。しかし他のカメ類と比較すると捕獲数は桁違いに多く、未だ多数の個体が生息していると考えられる。

小合溜は他の河川と直接接続はしていないものの閉鎖水域とは言い難く、カメ類の出入りは今後も生じるものと推察される。外来カメの捕獲をいつまで続ければよいのか、どの程度まで影響度合いを下げればよいのかなど、ゴールの設定が極めて難しい状況にある。また、他の生物との関連性も考慮に入れる必要があり、例えばカメ類による捕食圧が下がることで、ウシガエルやアメリカザリガニが増殖することが無いかを確認する必要がある。